

三十二日夕刊

交渉の餘地全く無く兩者各々堂々  
の陣を張り旗鼓見るの外なし

十二月午後四時府議院庶務會を  
き政府より大隈首相、武藏藏相、  
大隈内相出席し首相より砲兵工廠作  
會計と一般會計との混合を將來に  
止するの法規を政府若くは衆議院  
提出するの可否に付き熟慮研究  
とては適當の案もなく  
衆議院の關係もあり  
到底提出不可能なり

族院より提出すること能はずなら  
ば他に國庫解決の方法なきを以て終  
に全く交渉の餘地を存せざるに至り  
其の儘別れとなりたり斯くて  
數次の懇談會も終に不  
調に終り政府對族院は愈々眞  
正面より堂々の陣を張って旗幟相見  
るの外なきに非れり(東京特電)

歐洲大戰亂

育ベルド紙外二新聞紙は、墨、側カリフ、オハニア、國境附近にて、約二名の日本陸兵野營し居るを見たる者あり、墨國政府は、ち右の事實調査をなすべしとの電報を掲げたり（紐育電報）

國內に在りて軍務を執り最後の防戦をなさん  
(倫敦電報)

リデンツシユ來電に曰く黒山總督は當地に到着し發表して曰く黒山王ニヨラス及び其の政府は國の提出せる條件全部を拒絶せり戰鬪は全線に亘りて開始せられ國王及び諸皇子は

五回商賣を雪退

國は塞國に對し單獨媾和の勸告に盡力中なりと  
(倫敦電報)

男一千〇十六票の大半  
せり（東京特電）

上海邦人當選

米の聲價漸次向上しつゝあるは實に喜ぶべき現象なるも尙ほ輸出米中赤米の足入が、さうであるに等

（續前電報）

日鮮商人の協力を望む

度京城商業會議所の特別評議員に任ぜられたけれども、不肖果して此に止つたか、如何に、寧ろに漸進に推へて、商賈が出来た以上は之を活用して、商賈の發達を圖ることが、我が朝鮮國の取りては最も急務とする處で、諸君の一大奮發を要するのである。

走馬 居る處で之が爲めに無用な倉庫、廊下等が必要になつて居る朝鮮の宮、屋に物置の多いは余り之が爲である、此風習を打破して日々爲より供給を受けることになれば、結實倉など不要になり、一時に多額の金、錢を要せし商賈も隨つて整頓する

普通の商人と云ふも  
かつた李朝になり都  
朝鮮人の珍らしい品物  
の第一等は男子女子の

之を打破せねば商業の發展は到底  
 是れには深い原因があるから是非  
 之を充分研究して貰ひたいと思ふ

商賣の繁昌しやう理窟はないのら  
 ある内地人の商人も朝鮮人に對す  
 商賣は全く不熱心と謂はねばなら

た内地商人對朝鮮人の  
進展せず一方に偏して

ことを計されなかつたが、物資の供  
給に必要なところから、鍾路に六突  
と稱する壓釜を設け、官より貢米  
を食米を混合し、官民共進各官  
に配給する。また、赤面せしに居られぬ處であるか  
泥殿に往くことも、非常に少なくない

居住を許されたが、日  
突應以外にも多少の  
に夜店を出さしむるこ  
兼で一役人士も使用の

別の相談でもある場合に其幾分を  
 與へると云ふ有様で當時は物を  
 中々骨が折れた其に此京城  
 ふにも成つてから前の制度が廢  
 せられ、舊は賤賂手段は、又一つ

を下げなさいのこと  
斯の如き有様である  
いと思ふ

商人は中々、岸島が荒く物  
 買つて貰ふでなく賣つて遣ると云  
 へば有様で物を買つて貰つたから  
 互に協力し長短を補ふて貰ひな  
 ければ京城に於ける朝鮮側の繁榮  
 決して困難な事では無い要するに内  
 鮮人商人は京城の繁榮を根本義とし

國家經濟上又忽にすべからざるが、特に今次の戦亂に

要一時に激増せしも如何せん輸入は困難となり價格昂騰に昂騰を重ねる者をして其應急策に厲心せしむる種々の影響による製鐵會社の勃興

大の資本金を要するもの  
組織の力ありて始て其完

は最新化を應用せるものとして斯  
界に深甚の刺激を與へたるは諒を俟  
たざる所たるが元來同事業の如きは  
山國のみならず帝國も無感破目には

原棉相場保合米

上海に於て汽船中より清倫鐵軌、泰  
盛の輸出についても既に市販上の成  
果は充分なまでに達々に約三百萬圓の  
金を以て積立せる一命財を興  
た後、其の北洋第一船、一船は  
汽船、其の居民は奔走して二  
枚に就かず、金銀品の運搬も出来ず

相馬は本邦紬絹の買付如  
と相馬も左右せらるゝに昨

湖口を横切つた際、奥船が切れて四隻覆  
没して乗組全軍は溺死した之れを討  
伐難の手始め△抑う手始めに不起  
が續いては北の北原政府も底百

日一チ三十三圓五十錢恰好

意が、すなわめに印棉相搦も弱保合の委  
 にて相搦は二三月積コラカンガム二  
 千八百五十錠ヒンガン三十一圓ペン  
 ール二十五圓五十錠三、四月積ブ  
 られた處に▲此の地の得失は南北西  
 軍の勝敗の岐るゝ處だと云ふれて居  
 る▲處か其處は最うチヤンと軍軍が  
 占領して居ると云ふからやり切れな  
 くて居る

の係にて取調を受け尙外勸

素となし居たるも設立以來兎角の評判由からや社社長西區九條通下の町一七二番地大西清太郎 五は廿日大地方裁判所書記に召喚光行候事  
 軍が鎮まる譯ではあるまい△北から来る巴布札布も薩の革命軍も帝政反對に口實に過ぎぬ△此處には底もあ

錢拾五圓壹價定  
 □ 錢二十金稅郵 □

玉突の理論と實際を解説せる  
初學者の入門熟達者の虎の巻

京振 行發

本書中不動產登記の部には土地調査に關聯せるもの及不動產登記法に  
 關する申請書式、官公署の登記に關する囑記書式等併て百貳拾餘件並に  
 鑑盾印鑑證明頗、改印盾、土地變更事項に關する證明申請（京城府所  
 委任）狀、契約約書、保證書、建物圖面及共同擔保目録、雛形等々掲て加之  
 普通課登記に關する決議、實例等苟も申請人の參考と爲るべきものは  
 各書式の末尾に之を掲記して疑點を釋明し又商業登記の部には  
 永成年者、妻、法定代理人、商號、支配人及各會社に關する申請書式等  
 計五十餘件を登載し且一讀何人にも了解し得べき程度に之を編纂せ  
 土地所有者、不動産上權利者、會社、代書者必備の參考書たり

室部

**假名貞觀政要**  
 貞觀政要唐太宗帝が大は治國平天下より小は修身齊家の道に至る迄歷歷と開答したる事どもを四十の部門に分ちて編輯したるものにして我國歴代の聖天子の御講讀あらせられたるは固より先帝陛下に於てせられては故元田待詔の進講を開召され又た昭憲皇太后陛下にも同じく本書の素讀をせさせられ

確かに違ひありて此の難解なる心をしたる

假令貞淑要は平政子が自ら認識せるのみならず國に讀ましむ可く有濟せしめたる程ありて難かに現代の婦人殊に之れより人の妻となり人の母となる可き人、或は已に人の妻たり人の母たりて難かに對し切に誦讀を勸諭せるの價値十分なるを信じて疑はず此書の内容は固より國家治要の道に就て鑑戒とす可き點夥しからざるも又た修身齊家の方に就て裨益する所多きは云ふを俟たず大正の今日に於ては婦人に在りての一通り天下國家の事を辨へ置くは最も大切の事にして此書の中にも太宗帝の皇后(賢女)に向つて諫言を呈したる事あるを見ても婦人内助の功の如何に大なるかを知るを得可く吾人は異々も大正新時代の婦人が此書を愛讀して平常の修養に資せられんことを希望して已をざる也












九席 早川貞

A black and white woodblock-style illustration of a man in traditional Japanese clothing kneeling on a tatami mat, looking down at a large, patterned object (possibly a scroll or a large book) he is holding. A window is visible in the background.

[illegible][illegible][illegible]

京 去


本家 大阪府津門松屋町四 七ふくや 伊藤 長兵衛  
電話 大阪九七三番 南七九番



小兒科專門 若槻醫院  
京都城町三丁目 元十全病院跡  
電話 二四六二番

ドクトル 若槻寛隆

優等清酒



關西縣三井郡山川村  
藤堂元 富安 本店  
京坂永樂町二丁目  
發賣元 富安京城支店  
電話 一〇三九番  
振替口座 四三三九番

開通御披露  
電話五四二番

印章版木ゴム印並ニ  
菓子彫刻  
堂 守山安次郎  
京坂本町一丁目五三

人並りは  
洋藥 賣藥 醫療及試驗器械

山岸 天祐堂  
電話 二〇六八番  
振替 金六八番  
藥部 器械部

一般銀行業  
倉庫業

株式 會社 朝鮮商業銀行

資本金五拾七萬五千圓(全部拂込済)  
諸積立金廿二萬五千貳百圓

京城南大門通一丁目

銀行長 趙田 鎮明 敬泰  
支配人 豐田 明 敬泰

南大門支店 電話 八四九番  
本町支店 電話 一〇六番  
平澤支店















---